

成果概要

鈴木岩弓先生におかれましては、
東北からはるばる京都にお越しくださり
ありがとうございました。
感銘深い特別講義を賜り、いたみいります。
文学部の学生たちが水を打ったように静かに
聞いてくれて、奇跡のような時間でした。
とてもうれしかったです。

<感想の一部をご紹介します>

自己の信仰を保持しながら、他者へと寄り添うには
どうすればよいのか。
また僧侶の私にできる事は何かを見つめ直すことができた。
大学院生男性

日本人は自分で気づかないくらい深い所に何かしら
信仰心をもっていると私も思っています。
それが今日のお話で理解が深まりました。
大学院生女性

被災地での弔いについて知らないことが多く、
心の相談室の設立に至る経緯を知った時は、
現場の宗教者として何かをしたいという気持ちの熱さをして、
私も涙が出そうになりました。
大学院生女子

宗教者でなければできないこと、宗教協力による支援の
可能性について深く考えさせて頂きました。
ビハーラ僧

アウェイにおいて自己のアイデンティティを保ちながら、
寄り添うことの大切さと厳しさをあらためてかみしめました。
臨床宗教師研修生 女子

すばらしい特別講義でした。文学部男子

現場でご尽力された宗教者の方々に憧れをもちました。

宗教者を支援する宗教学者に敬意を表します。

文学部男子

私は宗教を本当に信じて、活動をしている人しか、

宗教の力を感じて、他者を助けられないのではないかと思っていました。

しかし、ヒトとカミ（亡き人）とをつなぐ宗教者によって、

普段強く宗教を信じたりしている人でなくても、

宗教に救われるのだなあと感動した。

文学部 日本文学 女子

やはり何事も対話が大切だと感じた。

宗教において異なる宗教者が話し合い、理解しようとしなければ、

なんだかよくわからない戦争がおこる。

文学部 日本文学 女子

震災後一週間もたたないうちに読経ボランティアなどの活動が

始まっていたことは知らなかった。このような宗教的な姿勢や

死の悲しみを抱え、災害に遭った人に寄り添うことができるのは、

宗教者ならではのことだと思う。

自分も臨床宗教師のような活動に関われたらいいなあと思った。

文学部 真宗学 女子

東日本大震災は災害や死が誰にでも起こりうるものであることを

再認識させていただく機会だったと思います。

身元不明者で、その方の宗派宗教が分からない場合に、土葬だけで

終えてしまうのは何と悲しいことだろうかと思いました。

私としては、宗派が違い、その聖典の意味はわからずとも、

誰かが祈ってくれば救われると思います。

仙台市で行われた身元不明の方々に対する追悼によって、

仙台市の人々の心も洗われたのではないかと思います。

文学部真宗学 男子

「公共空間で心のケアを行うことができる宗教」
というところにとっても興味を持ちました。
これからの未来社会での、素晴らしい光だと感じました。
本当にすばらしい講義でした。
文学部真宗学 男子

大震災に際して臨床宗教師のような存在が現れ、
心の傷を持った人々にとって大きな存在になったのは、
本当にすごいと思う。問題はたくさんあると思うけれど、
それでも少しでも人々が傷が癒えていけばいいし、
もっとこういうのが増えたらうれしいです。
文学部真宗学 女子

異宗教の宗教者たちがともに読経するというのは、
非常に難しいことだが、それでも、被災者の人々に
対する熱い想いが、このような行動を起こさせたのだと
思った。
文学部真宗学 女子

多様な価値観をもった人たちに寄り添う宗教者が
必要不可欠だと私も思いました。
講義お疲れ様でした。鈴木先生のこれからの
ご活躍を期待しております。
文学部真宗学 男子

などなど。
鈴木岩弓先生のおかげで、
またひとつ若い世代の学生たちが、
悲しみから生まれた臨床宗教師に、
希望と光を感じてくれました。
なんだべ おら
ほんとにありがとうございます。
またきてけらいん。

鍋島直樹九拝